

今昔物語 第17話

東高野街道と 周辺の道標

東高野街道は「山の根の道」とも呼ばれた、京都と高野山を結ぶ街道で、平安の昔より存在したものです。

鳥羽より淀・八幡・洞峠を越え河内に入り、郡津・星田・打上を経て四條畷・大東の生駒山系の山すそを南下。八尾・柏原・富田林を通り河内長野で西高野街道と合流し紀見峠・橋本を経て高野山に至る古道です。

大東市の本来の東高野街道は北条6丁目(十念寺の所)から野崎観音・専応寺前、四条小学校の東側を通り、寺川・四条中学校付近を通る道を指し、今は、ほとんど昔の面影はありませんが、寺・野崎観音・道標で当時を知ることができます。



高野街道に出るまでに左に折れ、専応寺に通じる道路があり、その角に道標が立っていました。

龍間不動尊への道標
車がなく徒歩に頼っていたころ、龍間への往復は中垣内からの道(古堤街道)と、この里道以外にありませんでした。龍間の児童が毎日、四条小学校へ登下校したのも、この山道でした。

今は野崎新池・宝塔神社、さらに龍間へのハイキングコースとして、親しまれる古道となっています。

東高野街道の道標
もとは東高野街道と古堤街道の交差点に立っていました。現在は古堤街道の龍間より立っています。この道標は、1つは、京都・大峰山への道しるべ、もう1つは龍間山不動尊への道しるべです。

今昔物語 第18話

古堤街道と周辺の道標

大和と河内を結ぶ道は、古来生駒山系を越える幾つかの峠道が開かれ、その一つに、本市域の峠道として中垣内越えがありました。

峠を越えるのは、単なる旅行者のほかに貨物を運ぶ場合が多く、路程は至近なことが前提ですが、荷物を運ぶには標高差が少ないことが重要です。中垣内越えは、頂点が約三百六十メートルで道もなだらかで、登降口の一部を除けば道筋も良かったようです。中垣内越えの道は、大阪市内より寝屋川に沿って大東市に入り、諸福・太子田・赤井・御供田を通じて中垣内に至り、そこから山路を登って龍間の入口の大文字屋からやや東南に向かい、なだらかな丘陵の間を荒池の南側に抜けて大和に入る。これが古堤街道です。

昔の面影はほとんどありませんが、道標や石碑が面影を残しています。

勿入淵跡顕彰碑

河内平野の中で特に低湿なこの辺りは、昔深野池などと共に内助の淵が存在しました。この淵は、往時大和川の流砂堆積の結果河床が高くなり、貯水が塞ぎ止められてできた池です。

この辺りでの淵の呼び名は、ナイスケの淵といい、内助と書きまます。これはナイリソがナイショに転化し、これに内助の文字をあて、さらにナイスケと呼ぶようになったと思われまます。

聖徳太子堂(善根寺旧跡碑)
地元の伝承では、この地に善根寺という七堂伽藍を整えた古刹があり、その寺領として御領・太子田・御供田があてられたといえます。しかし、この大寺も荒廃し、明治六年に廃寺となつてしまひ、その時、村人は永く信仰していた聖徳太子像だけは残したいと、明福寺に安置していたが、太子入滅千三百年を

機会に浄財を集め、この尊像をおまつりしたのが太子堂です。

赤井大峰堂内の道標

この堂は、すっかり景観が変わってしまった住道駅近くの古堤街道沿いにあり、道標は行き先を数多く記した珍しいものです。

古堤街道の道標

河内街道と古堤街道の分岐点に立つこの道標は、工事などにより、現在その三分の一ほどが地中に埋まっています。

中垣内越えの道標

古堤街道がいよいよ山道にさしかかろうとする所にあるこの道標も、阪奈道路の開通と共にごく一部の地元の人にしか目にとまらない存在となりました。なお現在、生駒へはこれから先、道が途中でとぎれ、通行はできません。

